# ２０２４／２０２５ 年 度

（令和６／７年度）

# 愛知・川の会　事業展開

## ２０２４年度（令和６年度）事業報告

１．愛知・川の会総会及び記念講演会の開催（主催事業）

日時；２０２４年６月６日(木)

会場；ウインクあいち　１１０１会議室

総会：通常総会を開催・成立

記念講演会：中村晋一郎氏、中居楓子氏 2023海外赴任帰国報告会

「パリ、ロンドンからの川だより」　総会・講演会には４０名が参加

２．日本河川協会　会員団体連絡会

日時；２０２４年１０月２４日（木）～２５日（金）

会場；東京 砂防会館 及び春日部市にて首都圏外郭放水路視察

／ 全国から１３団体が参加、二日間にわたる交流を行った

当会からの参加者；清水雅子副会長、近藤事務局長、星剛介氏

／ 愛知・川の会２０年経過後の「第３ステージ 新たな目標へ」発表

３、愛知県事業「ブラアイチ」への協力（当会は協力団体に登録）

３回開催され、参加者合計は ９００名以上である

第１５回；２０２４年５月２６日（日）ブラアイチ in 足助　参加者２４２名

第１６回；２０２４年１０月２０日（日　）　〃　in 稲沢　参加者４４０名

第１７回；２０２５年２月８日（土）　〃　in 大府　参加者２２７名

愛知・川の会は２０１７年１２月開催の第１回目「in 岡崎編」より案内役を担っているが、アンケート結果を見ても毎回その解説はすこぶる好評である
なおブラアイチへの累計延べ参加者は、第１６回稲沢編にて、５，０００名を超えた

**ブラアイチのあゆみ ／ 愛知・川の会**

| No. | 開催日 | 参加者数 | 開催地 | 河川等 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2017.12.24（日） | 303 | **岡崎** | 乙川、伊賀川 | 乙川改修と久後崎切れ |
| 2 | ① 2018. 3.20（火）<br>② 2018. 3.21（水） | 66 | **名古屋**<br>(クルーズ) | 中川運河 | 運河と熱田台地 |
| 3 | 2018. 6.16（土） | 515 | **蟹江** | 日光川(佐屋川)、蟹江川 | 日光川改修／舟運 |
| 4 | 2018.11. 3（土） | 350 | **碧南** | 衣浦港、名鉄三河線跡地 | 衣浦港埋立の歴史 |
| 5 | 2019. 3. 2（土） | 788 | **犬山** | 木曽川、新郷瀬川 | 木曽川扇状地の始まり<br>新郷瀬川の付替え |
| 6 | 2019. 3.23（土） | 416 | **豊川** | 佐奈川 | 佐奈川の付替え(海軍) |
| 7 | 2019.11. 9（土） | 56 | **日光川** (Eボート) | 日光川・蟹江川(排水機場) | 伊勢湾台風 |
| 8 | 2019.12. 7（土） | 392 | **岩倉** | 五条川 | 木曽川の氾濫原 |
| 9 | 2019.12.17（火） | 39 | **奥三河** (バスツアー) | 四谷千枚田、豊川設楽ダム | 奥三河の地形・地質 |
| 10 | 2020.12.13（日） | 441 | **豊橋・二川宿** | 梅田川、宮川砂防 | 遠州灘の洪積台地 |
| 11 | 2022. 6.19（日） | 420 | **半田** | 阿久比川、半田運河 | 天井河川・阿久比川 |
| 12 | 2022. 9.17（土） | 292 | **あま市／狂言と防災** | 蟹江川 | 海部地方川の付替えと舟運 |
| 13 | 2022.10.16（日） | 345 | **津島** | 天王川公園(木曽川派川) | 二之枝川の痕跡として |
| 14 | 2023.10.28（土） | 249 | **東浦** | 明徳寺川 | 知多半島の今・愛知用水の水 |
| 15 | 2024. 5.26（日） | 242 | **足助** | 足助川、巴川 | 中馬街道（舟運と陸路のきわ） |
| 16 | 2024.10.20（日） | 440 | **稲沢** | 三宅川 | 二之枝川痕跡の地形 |
| 17 | 2025. 2. 8（土） | 227 | **大府** | 五箇村川・逢妻川 | 河川の立体交差、砂川樋門 |
| 18 | 2025. 5.18（日） | | **瀬戸** | 矢田川(山口川) | 利水と治水 |
| | | | | | |
| 計 | | 5581 | | | |

４．川を巡るエクスカーションを愛知、関東、関西で開催（主催事業）
以下の３回で合計４２名、幅広く多様なメンバーが参加した

Ⅰ　２０２４年９月１４日（土）　源兵衛川エクスカーション（静岡県三島市）
関東在住会員による主体企画で１３名が参加

Ⅱ　２０２５年３月１日（土）～２日（日）米川エクスカーション（滋賀県長浜市）
関西在住会員による主体企画で豊田バイオフィット研究会と共催
案内いただいた米川よろず会議メンバー含め、１５名が参加

Ⅲ　２０２５年３月９日（日）　半田運河エクスカーション（愛知県半田市）
同日開催された第２１６回河川文化を語る会との共同事業
語る会参加者の内、１４名が参加

上段；左から源兵衛川エクスカーション　右端が米川での探訪交流会
下段；米川交流会集合写真　半田運河エクスカーションでのミツカンミュージアム前集合写真

５、第 216 回 河川文化を語る会（共催事業 ／公益財団法人 日本河川協会主催）

開催日：２０２５年３月９日（日）　ウインクあいちにて開催
内　容：「運河から見る水の文化」　４６名参加、エクスカーション１４名参加
① 半田運河と共にあゆんだミツカンが考える水の文化とは
／株式会社 ミツカン　亀山勝幸
② 川から眺めた英国運河の風景と文化　／名工大 中居楓子助教

６、第１６回（通算 26 回） いい川・いい川づくりワークショップ in 白山・手取川
への実行委員会（近藤、清水雅子副会長、坂本貴啓さんら）参加

開催日：２０２４年９月２７日（金）～９月２９日（日）

場　所：金城大学笠間キャンパス（石川県白山市）

エクスカーションは、９月２７日に手取川水系など石川県内で開催

内　容：通算２６回目となる「いい川」ワークショップを石川県で開催
中部（愛知・川の会）からは実行委員の他、矢作川流域圏懇談会が４年連続で発表したのを始め諏訪湖湖浄連、天竜川ゆめ会議など中部の団体が躍動した。グランプリを受賞した米川よろず会議との交流により、２０２５年３月に川の会エクスカーションも実施した（前頁参照）

黒目川筋肉部

しらみね大学村

米川よろず会議（GP 受賞）

７、第３回 中部のいい川ワークショップ in 伊勢湾流域　共催事業
への実行委員参加、発表（四日市市楠福祉文化会館において）

開催日：２０２５年２月１日（土）　主催；中部流域連携ネットワーク

内　容：愛知・岐阜・三重・長野・静岡での連携を目指す「中部流域連携ネットワーク」５年目事業として３回目のワークショップを開催した。
今回のテーマは「伊勢湾から見た私たちの流域とつながり」
／流域での連携を進めるための４つのアプローチテーマを設定、「流域の入口」「流域をつなぐ」「世代をつなぐ」「海からつながる」により１６団体が発表とセッションごトークを展開、その後に松沢孝晋氏「伊勢湾から見る流域環境」、森誠一教授「河川の時・空間論」、中村晋一郎准教授「中から川と人の関係性を考える」話題提供いただいた上で、若手の新玉拓也さん、そして会場も交えたクロストークを展開した

８.「愛知・川の会の 20 年の成果」を踏まえた第 3 ステージへ連携深化の試み

２０年間の交流と連携実績をベースに、特にこの５年間ほどは中部を始めとする様々なネットワーク団体との関わりを徐々に深めてきた。中部流域連携ネットワークには当会会員の内６４名程が参画、２２世紀奈佐の浜プロジェクトに関わる会員数は４４名など（重複あり）。２０１０年に設立された矢作川流域圏懇談会（事務局：豊橋河川事務所）にも当会はスタート時より関わっており、現在までに６０名程の会員が何らかの形で関与している。愛知・川の会では２０２０年度以降、流域治水という取組みに注目してきたが、最近の大きな動きとして「流域治水から流域総合水管理への進化」があり、このような情報は主に矢作川流域圏懇談会山部会で共有されてきた。以降２０２４年度中に、水循環基本計画の改訂（８月）、流域総合水管理のあり方検討会（二つの審議会）の開始（２０２５年２月２８日）など動きが活発になってきており継続的に注目、そこで懇談会が開催する公開講座の第５回として「流域の視点から見た治水・環境と総合水管理」をテーマとさせていただいた（２０２４年１２月１７日）。講師として来ていただいたのが、お馴染みの蔵治光一郎教授、萱場祐一教授、そして自然共生研究センター長の森照貴氏である。まだスタート段階ではあるが、以降も注目していきたい。

2024.12.17 矢作川流域圏公開講座Ⅴ「流域の視点から見た治水・環境と総合水管理」 藏治教授、萱場教授、森センター長

2024.10.12～13 22 世紀奈佐の浜プロジェクト海岸清掃　　未来創造プログラムによる学生・OB 答志島合宿

近年の当会会員数の増加は、このようなネットワーク団体との連携の深まりと、ほぼ比例しており、入口テーマの多様化は重要だと認識した。ただしテーマは異なっていても、時代の転換期にあって様々な問題の根っこは同じだとも感じる。その中で水循環、あるいは流域総合水管理は共有すべき重要なテーマとしたい。

愛知・川の会２２年目の活動であったが、いまだ「２０年誌」発刊には至っていない。まずは現在展開している転換の試みと到達点を「フィードバックⅤ」としてまとめ、２０２５継続事業とさせていただく。

# ２０２５年度（令和７年度）事業計画（案）

安全かつ快適で自然豊かな河川、あるいは流域社会を探求するために、活動する会員または会員の属する団体の情報・意見交換等を通じて、交流・連帯及び支援を図ることを目的に、次の事業を行う。

## Ⅰ．会員等の活動の親睦・交流・連帯の場の運営、そして外部連携と発信へ

１．総会・記念講演会の開催　２０２５年５月２３日（金）ウインクあいち

講師；**アトリエトド（主宰）　松井正澄　氏**

「源兵衛川・くらしに水辺を取り戻すこころみ」

２．ブラアイチ（愛知県主催事業）を協力団体として支援する

□ **第１８回ブラアイチ　in　瀬戸　２０２５年５月１８日（日）**開催

～ 以降、西尾などで開催予定とのこと　継続的に協力していく

３．エクスカーションの実施

学びの場であるとともに、川づくりなどに関する過去の実績の構築を進め、これを河川管理者や水辺を活用する市民などに伝承するための手法を検討していく。その試行の一つとして、３０年に及ぶ多自然川づくりを展開してきた籠川水系において、河川管理者やコンサルタントの方々を招いたエクスカーション実験を行う（２０２５年５月２４日）他、昨年度に引き続き、流域の入口や研修の場として活用できる有効な手法をチャレンジしていく。候補地として、香流川（長久手市）、善福寺川（東京都）、愛知川（滋賀県）など。

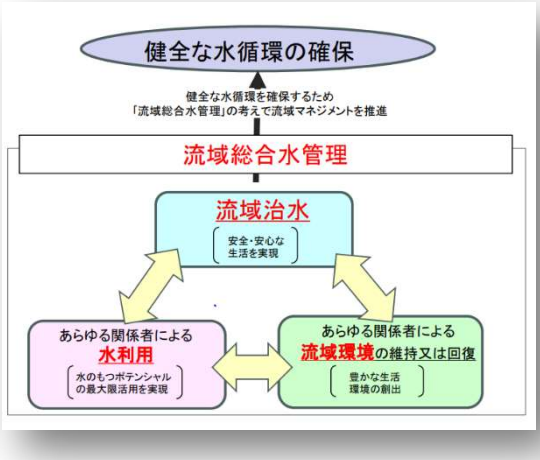
2025.5.24 籠川水系エクスカーション

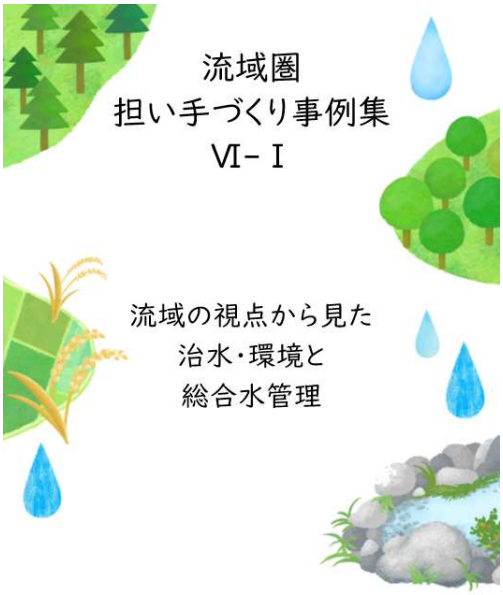
４．「河川文化を語る会」など講演会の実施
　エクスカーションと同じく、多様なテーマにより多くの人々の入口となる取組を検討。候補として能・狂言を切り口に「草薙神剣ロードマップ」など。

**2026.2.7 河川文化を語る会「草薙神剣ロードマップ」を予定している熱田神宮宝物館**

５．「いい川・いい川づくりワークショップ」への参加など広域連携の促進
□ **第１７回いい川・いい川づくりワークショップ in 兵庫**
**２０２４年１０月２５日（土）～２６日（日）神戸市 KIITO にて開催**
□ 中部流域連携ネットワークの第２ステージを模索する
／第１ステージ（2020-2024 の５年間助成事業終了）成果を踏まえて

６．その他
　ネットワーク団体との連携をさらに深化させる。そのためのキーワード、メインテーマはやはり「水循環社会」「流域総合水管理」か。
愛知・川の会活動は２３年目となり、記念誌作成事業は継続していく。




**2025.3 月発刊　「流域総合水管理」をテーマとした流域圏担い手づくり事例集　矢作川流域圏懇談会編集**